

N H K 交響楽団演奏所  
NHK SYMPHONY ORCHESTRA

P H I L H A R M O N Y / 響 + 格 + 新が調和する場

響

rhythm

リズムカルなモチーフにより  
音の調和を表現し  
音楽の素晴らしさを伝えます。

楽団のイメージを発信するファサードデザイン

- ・光を受けて刻一刻と変化し、舞台幕のドレープやリズムを想起させるアルミコート壁
- ・道行く人にN響の活動を伝える開放的なギャラリースペース
- ・夜間も着実に楽団の存在を印象付けるロゴサイン

格

elegance

およそ90年間保たれた品性を伝える  
シンプルで洗練されたデザインにより  
周辺地域との調和を図ります。

新しくもノスタルジックな雰囲気を感じさせるインテリア

- ・楽器を想わせる落ち着いた木を基調とした内装
- ・楽団員の様々な営みを許容する寛容な空間・楽団員ラウンジ
- ・ファサードイメージを助長し、コーポレートカラーを印象づけるベルベットカーテン

新

modern

積み重ねられた歴史と調和しながら、  
現代的な軽さを備えるデザインとし  
施設イメージを刷新します。

記憶を継承し空間を引き立てるデザイン

- ・敷地内にあった古木で造ったベンチや従前の階段手すり再利用
- ・海外公演を重ねるごとに軌跡が刻まれる楽器ケースに着想を得た「書き加えて更新するサイン」
- ・以前の描画モチーフを引用し新たに再生したピクトグラム

before



90年の歴史をもつNHK交響楽団の演奏所（練習場）のリニューアルプロジェクトである。演奏所は元々放送スタジオとして計画され、約50年に渡り増改築を繰り返しながら使われ続けてきた、言わば楽団のホームグラウンドである。この良質な建築ストックを大切に活かしながら、現代に適う機能の充足と練習に相応しい快適な環境の提供に加え、イメージの刷新を伴い、世界一流の演奏家集団の広告塔としての場づくりを行った。このプロジェクトは歴史ある楽団と彼らの建物の記憶を、新しい時代へと橋渡しする試みである。



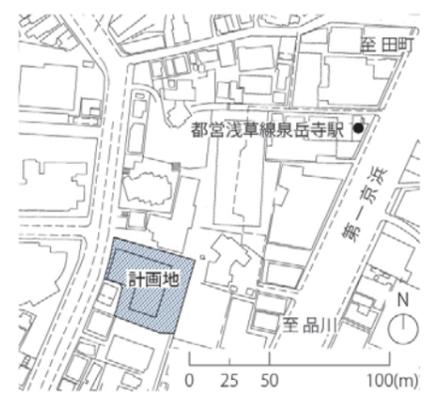
- 背景 -

一流演奏家集団の練習場であり、世界トップクラスの指揮者が訪れる場である一方、建物の老朽化が進み、スペースの不足に加え練習に適した環境整備も不十分であった。またスタジオ故、前面道路に対して閉鎖的で、近くを通ってもそこがN響の拠点であることが認知されない課題もあった。投資を抑える為、既存建物を活かした全面リニューアルと一部増築で、適法化や練習環境の改善に加え、施設イメージの刷新を図ることとなった。

築50年以上経た建物を取替えず、既存の建築ストックを有効利用して投資や環境負荷を抑えた上で、大胆かつメリハリのある改修を行い、ユーザー及び都市に対して新たな価値を提供することを考えた。

現代に適う機能充足に加え、楽団が潜在的に持っていたようできて全く新しいイメージを具現化し、リズムや品格、日本的な移ろいを想起させて楽団のイメージを発信し、街並み再生のきっかけとなるファサードデザインとした。

地域に開放された展示コーナーやチケット販売の開始、社会貢献活動としての演奏会実施等、リニューアルを機に文化芸術の普及につながる営みが段階的に実施され、広がりのある場を形成している。



before



外観：アルミコート壁等によるイメージの刷新。



before



階段：既存の木製手摺を再利用し、楽団の歴史を未来へつなげる空間のアクセントとして機能。



before

外観足元：壁と駐車場であった空間をガラス張りのギャラリーとし、N響の活動が地域に広がるきっかけとした。



before



第一演奏室：既存の意匠を残しつつ、安全性や練習環境を改善。



before



第二演奏室：スペースの制約上、物置となっていたが、倉庫を適切に確保し適度なサイズの演奏室として再生。



before



楽団員ラウンジ：プランと機能を整理し楽団員の交流の場として再生。収納量も増え、雑然とした雰囲気から居心地のよい空間へ。



before



サイン：既存のピクトデザインのかたちを踏襲し新たなピクトとして再生。



before

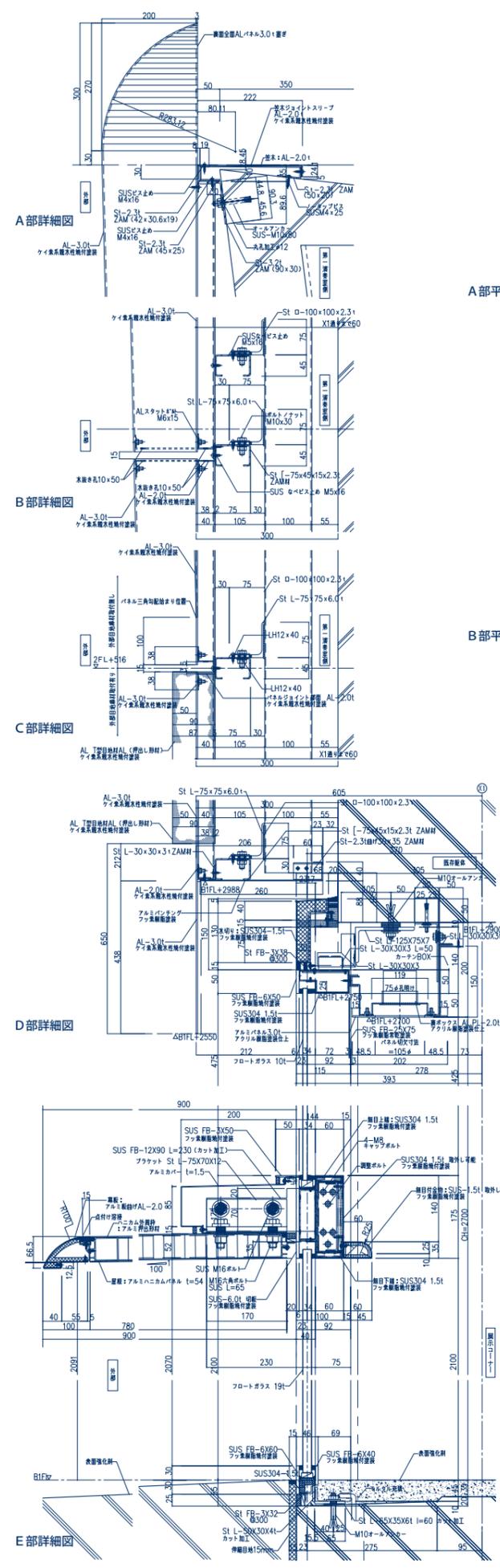


### ファサードデザイン

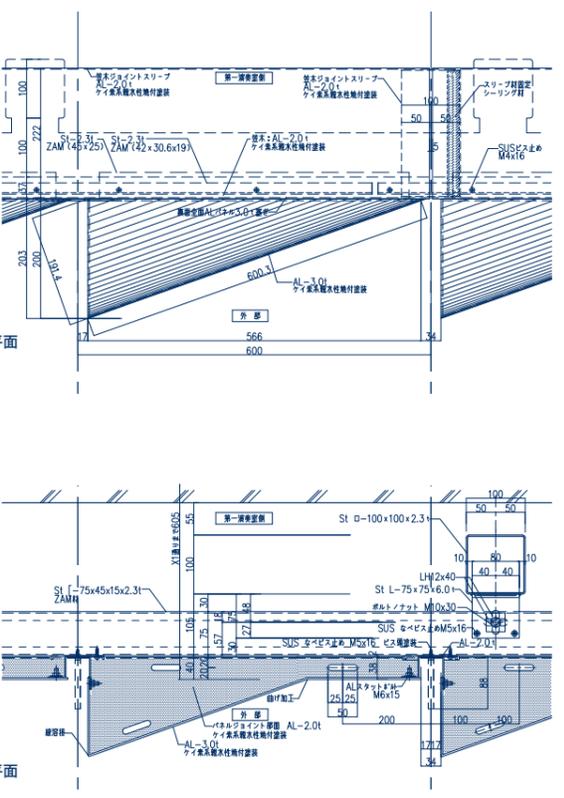
ファサード計画においては、従前のデザインを刷新し、“世界のN響”のイメージとその営みを伝えることが求められた。以前は、メインの演奏室の遮音壁と駐車場及び壁で構成される閉鎖的な設えであったが、比較的健全であった躯体に金属コート壁を施し、足元は展示室として道行く人に働きかけるオープンなガラススクリーンとした。

アルミの化粧壁は幕間のドレープを想起させ、音楽のリズムを感じさせる意匠としており、華美ではないが印象的な、一流演奏家集団の本拠地に相応しいメッセージを備えるものである。

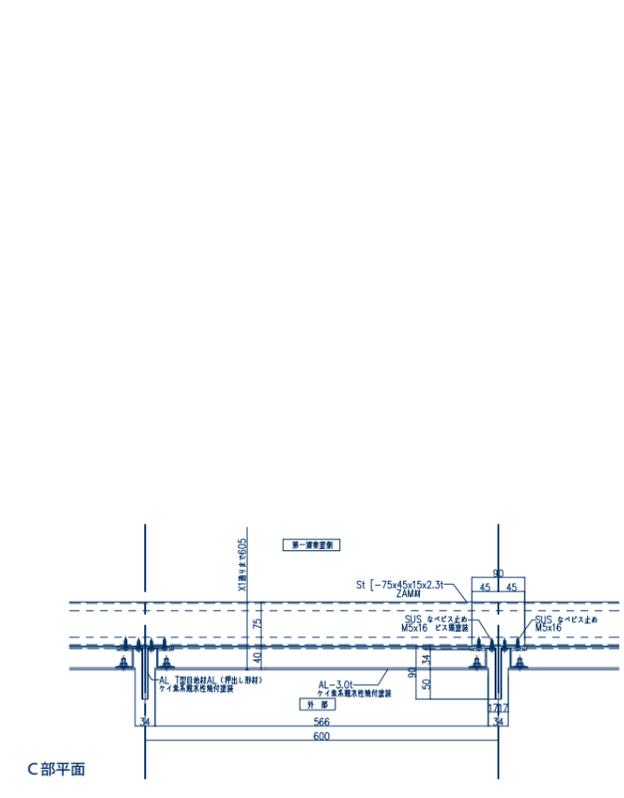
線溶接を伴った繊細な折れ線とセルフクリーニング機能のあるホワイトブロンズ色のケイ素系親水性塗装により、時間や季節、見る方向によって刻々と表情を変え続けるシンプルで深みのあるファサードを実現した。



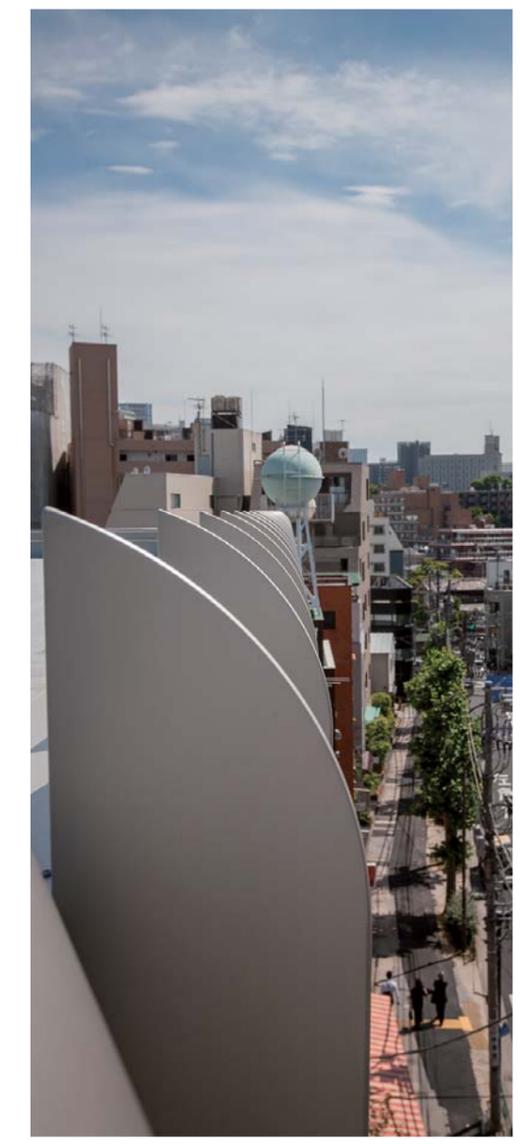
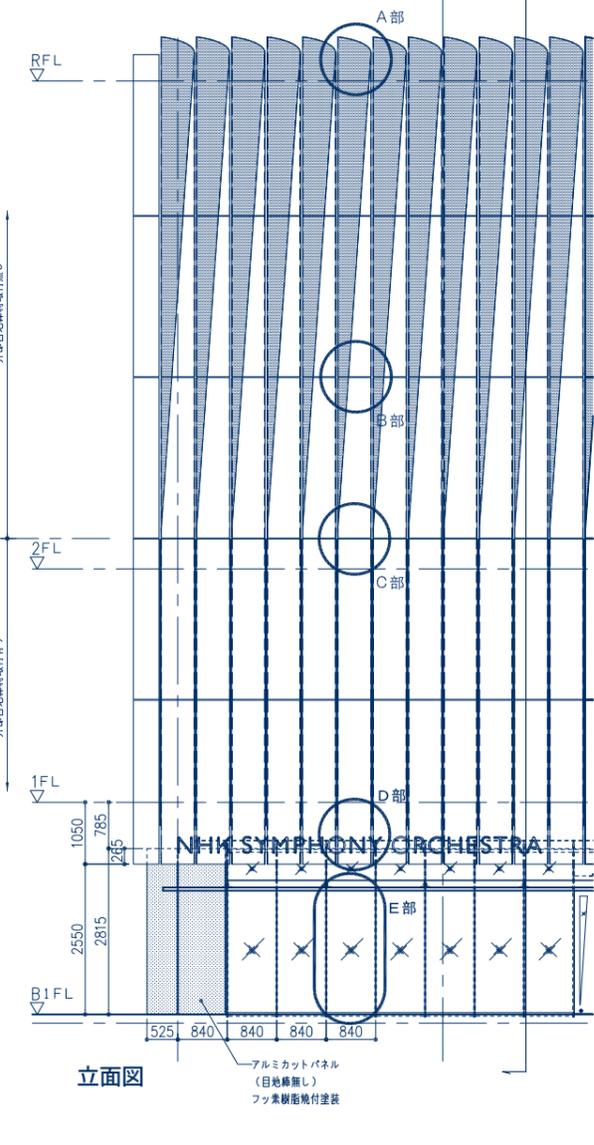
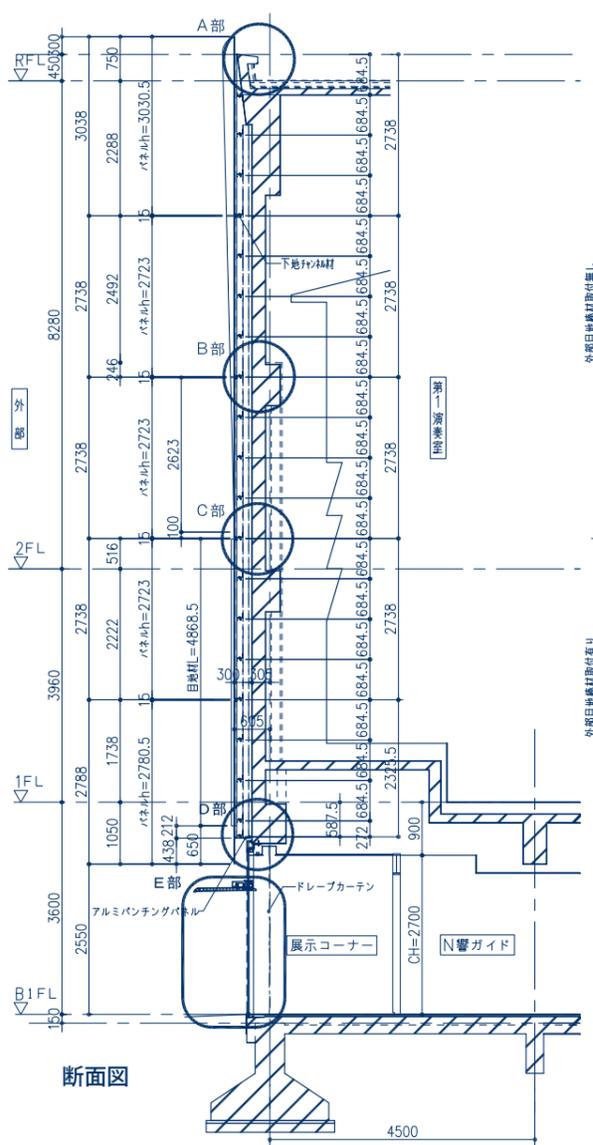
矩計図



断面図



立面図





音の響きや室内環境の改善に加え、特定天井の適法化による安心・安全で快適な第一演奏室



建物裏側は既存同様の吹付タイルとしメリハリのある計画とした

第一演奏室には音響性能、室内環境の改善と、特定天井部の適法化が求められた。音の響きの改善の為、全ての内装部分の吸音・反射の仕様を見直し、ドラフトを生じない布ダクトによる空調の採用に加え、天井反射板裏でワイヤー等吊材による補強を行うことで、元々の意匠を再生し、安心安全で快適な練習環境を実現した。

一方で建物裏側は、既存外壁の再整理の上、吹付タイルを施すに留めたり、建物全体で雰囲気は統一しながらも、その他内装部分については、機能を満たした最低限の設えとするなど、メリハリのある計画とした。

その結果、元の建物の記憶を少しずつ継承しながら、新たな価値を持つ空間への再構築が実現した。



既存サインの再利用



シンプルながら雰囲気のある設え



世界的指揮者が利用する指揮者室



既存トップライトを再利用した分奏室（個人練習室）

## 敷地概要

住居表示	東京都港区高輪二丁目16番49号
用途地域	第一種住居地域 / 準防火地域
他の指定	第3種高度地区、市街化区域
日影規制	5時間-3時間(測定面4m)
敷地面積	2,150.00 m <sup>2</sup>
主要用途	演奏所
工事種別	増築
建築面積	1,180.66 m <sup>2</sup>
延床面積	2,052.15 m <sup>2</sup>
建ぺい率	54.92%/60%
容積率	93.84%/300%

## 既存部

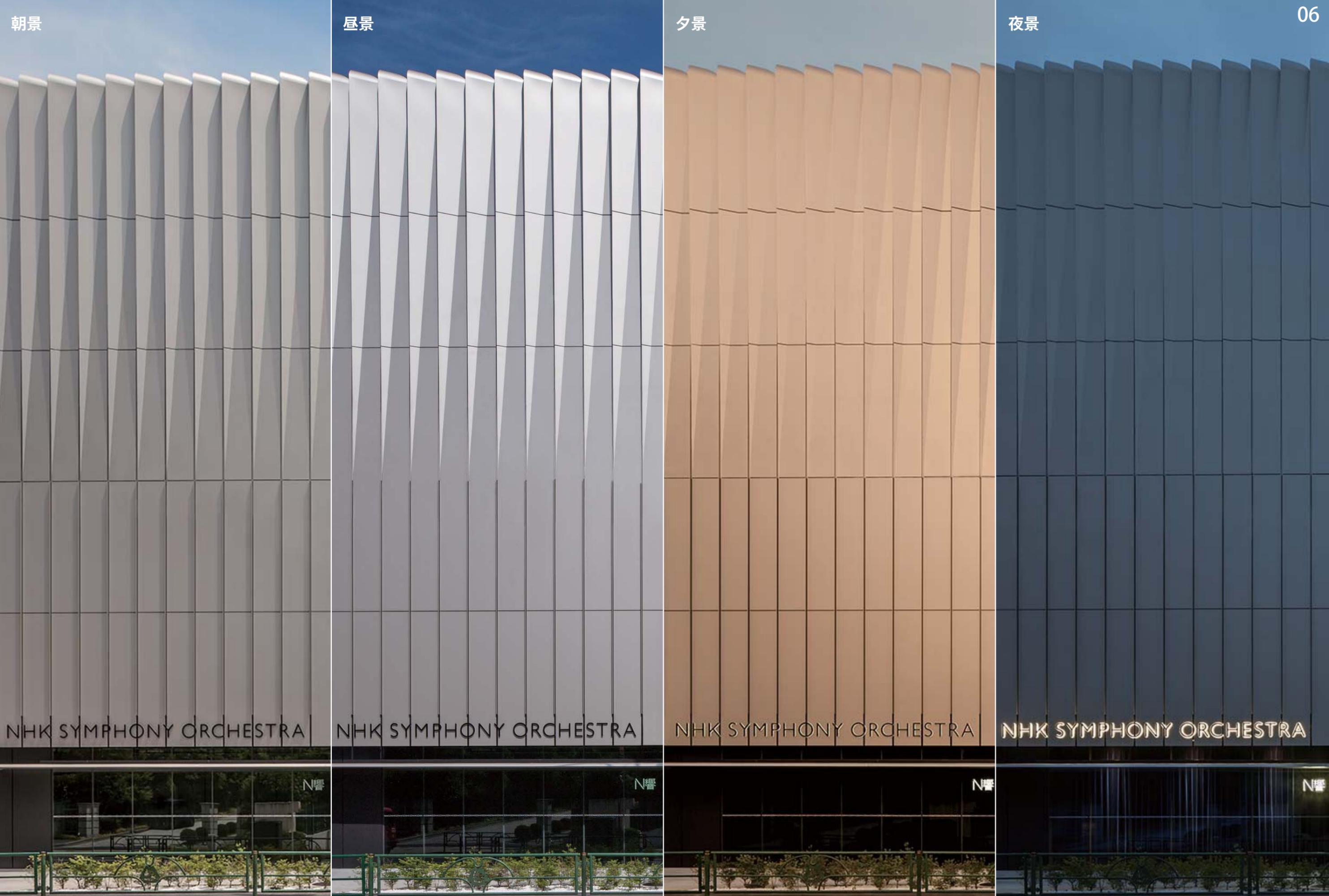
建物規模	地下1階、地上2階
構造種別	鉄筋コンクリート造
基礎地業	独立基礎
最高高さ	16.440m
軒の高さ	15.990m
建築面積	911.295 m <sup>2</sup>
床面積	2F 506.951 m <sup>2</sup> 1F 911.295 m <sup>2</sup>
	B1F 385.404 m <sup>2</sup>
合計	1803.650 m <sup>2</sup>

外部仕上	
屋根	既存防水層の上 環境対応型改質アスファルト防水、環境対応型ウレタン塗膜防水
外壁	既存コンクリート躯体の上 アルミ切板/パネル(曲げ、線溶接加工)、アルミスパンドレル、吹付タイル
開口部	ステンレスサッシ、アルミサッシ、既存アルミサッシ塗装
内部仕上	
床	既存コンクリートの上 表面強化剤、フローリング、タイルカーペット
壁	天然木練付不燃合板、繊維強化せっこうボード(有孔、無孔)、アルミパネル、ステンレスパネル、レンガタイル、せっこうボード
天井	アルミパネル、岩綿吸音板、天然木練付不燃木リブ

## 増築部

建物規模	地上2階
構造種別	鉄筋コンクリート造
基礎地業	べた基礎
最高高さ	8.439m
軒の高さ	8.159m
建築面積	152.70 m <sup>2</sup>
床面積	2F 21.720 m <sup>2</sup> 1F 205.764 m <sup>2</sup>
合計	227.484 m <sup>2</sup>

外部仕上	
屋根	屋根保護防水絶縁断熱工法(B-1)
外壁	コンクリート躯体の上 吹付タイル
開口部	アルミサッシ
内部仕上	
床	コンクリートの上 表面強化剤、フローリング、タイルカーペット
壁	天然木練付不燃合板、せっこうボード、繊維強化せっこうボード(有孔、無孔)
天井	岩綿吸音板



舞台幕のドレープや音楽のリズムを想起させるアルミコート壁が、光を受けて刻一刻と表情を変える。



シンプルでありながら刻々と表情を変える幕のようなファサード



街に開かれたギャラリーとロゴサイン | 夜間も道行く人に存在感を与える



従前のファサード  
このリニューアルで金属コート壁を施した

## 1. 楽団のイメージを発信するファサードデザイン

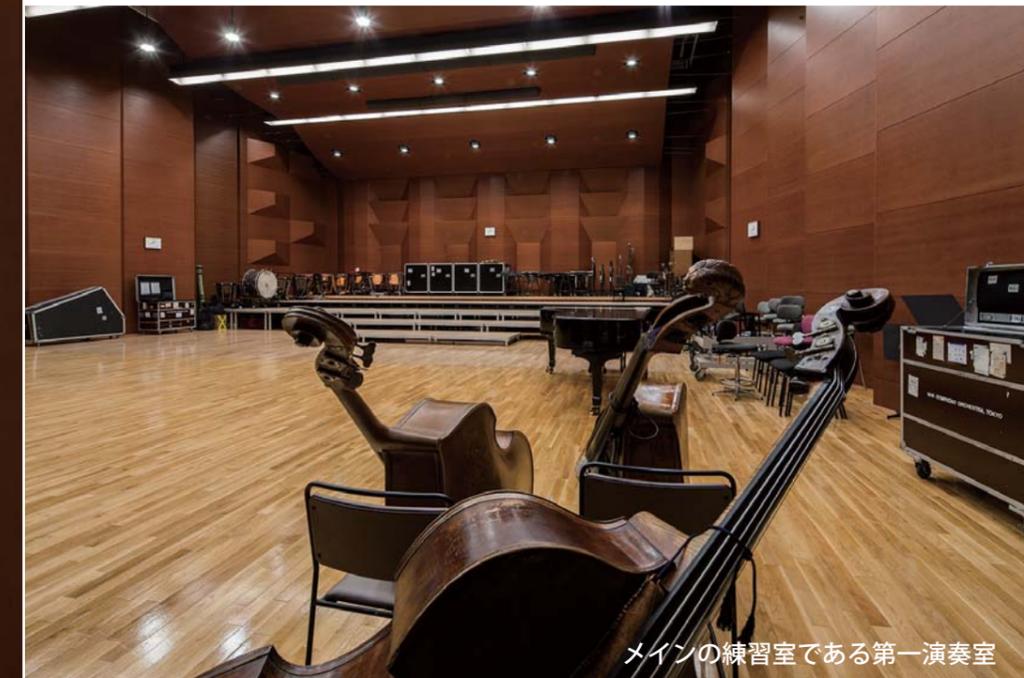
- ・光を受けて刻一刻と変化し、舞台幕のドレープやリズムを想起させるアルミコート壁
- ・道行く人にN響の活動を伝える開放的なギャラリースペース
- ・夜間も着実に楽団の存在を印象付けるロゴサイン

## II. 新しくもノスタルジックな雰囲気を感じさせるインテリア

- ・楽器を想わせる落ち着いた木を基調とした内装
- ・楽団員の様々な営みを許容する寛容な空間
- ・ファサードイメージを助長し、コーポレートカラーを印象づけるベルベットカーテン



様々な素材を用い、居心地のよい楽団員ラウンジ



メインの練習室である第一演奏室



適度な響きと広さを持つ第二演奏室



シンプルな木質の内装の2階廊下



空間になじむサインと既存再利用の階段手摺

1F 1F 1F  
rehearsal studio no.1/2 | 第1/第2演奏室  
rehearsal room no.1/2 | 第1/第2分楽室  
maestro's room | 指揮教室  
lounge | ラウンジ

B1F B1F  
N-Kyo Guide | N響ガイド  
security office | 受付



ブルーベルベットのがあるエントランスと既存の松から造ったベンチ

### III. 記憶を継承し空間を引き立てるデザイン

- ・計画地内にあった古木で造ったベンチや再利用した従前の階段手すりに刻まれる風合い
- ・海外公演を重ねるごとに軌跡が刻まれる楽器ケースに着想を得た「書き加えて更新するサイン」
- ・かつての描画モチーフを引用し新たに再生したピクトグラム



楽器ケース

+



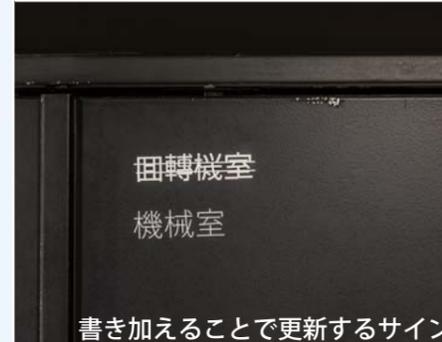
従前のピクトサイン



従前のピクトをモチーフにしたサイン



さりげなく空間を引き立てるサイン



書き加えることで更新するサイン



楽器搬出入時に求められる耐久性を備えたステンレスパネルの壁仕上



頂部ディテール



妻側ファサードディテール

ファサードディテール